

T&M通信

～税務と経営～

2022年5月号

今月の経営チェックポイント✓

- 事業復活支援金の申請が始まっています。申請期限は5月31日（火）までです。
- 市町村長から個人住民税の特別徴収税額の通知があります。
※令和4年度の住民税の給与からの特別徴収は、6月分からの徴収になります。
- 今月の祝日は、3日憲法記念日、4日みどりの日、5日こどもの日です。
- 5月、6月決算法人の方は、賞与等決算の対策の準備をして下さい。

納税期限スケジュール

- 確定申告税額の延納届による延納税額の納付期限
5月31日（火）
- 自動車税・軽自動車税の納付期限
5月31日（火）

※当事務所におきましても、5月よりクールビズの推進を行います。何卒よろしくお願い致します。



着眼点 「大波を乗り越えましょう」

税理士 田中 彰

今年もゴールデンウィークの頃となりました。少しゆっくり過ごされる方やお忙しく過ごされる方がおられると思います。私にとっては、そろそろ花粉症の季節が終わってくれるので元気が出そうな今日この頃です。

さて、世間に目を向ければロシアのウクライナ侵攻や知床観光船遭難事故などで小さな命も含め多くの人生が奪われる痛ましい出来事が続きます。ある人の一瞬の判断による行動が多くの人びとを巻き込み大事件に発展する異常さを思わずにはいられません。

特にロシアの問題は深刻ですね。最近、地政学ということを目にする機会があります。『国の位置』すなわち『地理的条件』をもとに国際政治を研究する学問の事ですが、ロシアは日本の隣国のひとつで、第三次世界大戦（4月25日にロシア外相が「第三次世界大戦もありうる」と発言）になれば、ウクライナで起こっている事は対岸の火事ではありません。

現在も、食料品（特に小麦粉）や建築資材や什器、ガソリンや光熱費の高騰という形で私たちの生活にその影響が出始めています。さらに日米の金利差による円安や急速なインフレによる大きな波もやってきそうです。もう一つ私にとってはAI（人工知能）の進展によって従来の仕事が無くなるという荒波にも襲われそうです。

落ち込むようなことばかり書きましたが、実は私自身はそんなに落ち込んではいません。生来能天気なのか、若い頃、人工波のプールで「よし、乗り越えてやるぞ」と心地よい緊張感で大波を待ったのを思い出します。例えば不謹慎かもしれませんが、これから迎える社会の大波もそんな風に思っています。（偉そうなことを言って、結局撃沈するかもしれませんが・・・。）

私が大波を越えるために必要と考えていることを列挙します。

①リスクにチャレンジ、新しいことにチャレンジすること。

どこかのCMで「何もしないことが最大のリスクだ」というのがありました。

②でも、チャレンジすることは、興味のあること、好きなことを積極的に行うこと。

チャレンジといっても楽しいこと面白いことでないとやれませんからね。

③仕事においては、新聞等から世の中の流れを読み、売上や利益を上げ続けられるように努めること。

新たな仕事の創設は世の流れに逆らっては成功しませんから。

④さらに仕事について具体的には、補助金や助成金を活用すること、節税の情報収集に力を入れること。

これはクライアント様のためにも大変有意義なことだと思います。

⑤資産形成については、インフレが進むので、円の預貯金（当座のお金は必要ですが）だけに頼るのは止めること。

インフレは借入金には有効かもしれません。

とりとめのない記事で失礼しました。

●在職老齢厚生年金の支給停止基準額の変更

令和4年4月からの法改正により、60歳～65歳未満の方の在職老齢年金の支給停止金額の基準が28万円から47万円に変更になり、65歳以上の在職老齢年金受給者と同じ基準になりました。変更前は60歳～65歳未満の方の老齢厚生年金月額と総報酬月額相当額の合計が28万円以上になると年金の支給額が全部又は一部停止されましたが、今回の改正により老齢厚生年金月額と総報酬月額相当額の合計が47万円以下であれば年金は全額支給されます。但し、総報酬月額相当額は厚生年金に加入している事業所からの収入になりますので、厚生年金に加入していない事業者、短時間労働者等はそもそも支給停止の対象にはなりません。

今回の改正は、今後の社会、経済の変化を展望し、人手不足、健康寿命の延伸、現役世代の人口の急激な減少が見込まれる中で、より多くの方がこれまでよりも長い期間にわたり多様な形で働くことが見込まれる事に対応する為に行われたものです。

（文責：田中 恵子）

●読書雑感 ～伊坂幸太郎『逆ソクラテス』～

昨年福知山市から大阪府枚方市へ引っ越しまして、枚方市には図書館の本を駅前貸出・返却できる便利なサービスがあることから、近頃は読書がはかどっております。さて、ご紹介したいのは伊坂幸太郎さんの短編集『逆ソクラテス』です。

ざっくりとストーリーをご説明すると、小学生である主人公が、担任教師の“先入観”をひっくり返そうと、クラスメイトと結託してあの手この手で画策するというお話。この担任、悪人ではないのですが、無自覚の“先入観”で時に生徒を傷つけます。例えば、主人公のクラスメイトである草壁くんがピンクのセーターを着てきた時には「おまえは女子みたいな服を着ているな」と全校生徒の前で言い、草壁くんはそれ以来「クサ子ちゃん」と呼ばれてからかわれる羽目になります。

私も小学生時代に草壁くんと同じような経験があり、クラスのお調子者に「おとおんな～！」としばらく呼ばれたことがあります。幸いにも幼馴染や友人に恵まれたため傷つくことはなかったですが、こうしてふと思い出すということは、その時は悲しかったのかもしれませんが。（悲哀ではなく、憤怒かも・・・。）この本を読んで昔の自分を思い出し、今の自分を振り返る機会になりました。30数年生きてきた中でできてしまった“先入観”で、同じように誰かに嫌な思いをさせてしまうことがあるかもしれないと心に留めようと思います。

“先入観”で傷ついたり、傷つけてしまったり、痛い目に合ったりというのは、誰もが経験することだと思います。多感な時期を過ごしている子供たちにも刺さる作品だと思いますし、大人でも、特に子育て中の方にはまた違う視点もあるかもしれません。伊坂幸太郎さんらしく、非現実的でミラクルな展開もあり、教訓としてだけではなくエンターテインメントとしても楽しめる小説ですので、是非読んでもらえると嬉しいです。

（文責：田中 ひとみ）